

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	英語	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	辰己 千晶	実務経験	

教科書	
参考書	歯科医院での実用英会話 第3版 / 医歯薬出版 著者：土田 和範・廣畠 英雄・上沖 彰宏・Steven M. Wolfe・笛吹 理恵
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士として知っておくべき実用的な英語知識を身につける為に「読む・書く・聞く・話す」に関する基礎的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。 2. 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。
授業概要	実際の歯科クリニックで使用される場面を想定しての英語での会話、表現を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	受付での対応時の会話と英単語
2	問診時の会話と英単語
3	治療時の会話①と英単語
4	治療時の会話②と英単語
5	予防処置時の会話①と英単語
6	予防処置時の会話②と英単語
7	補綴時の会話と英単語
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	情報処理	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	河野 雅湖	実務経験	

教科書	
備考	講義の前にプリント配布
成績評価	授業態度・出席状況・提出物・レポートにて評価。 評価は100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 情報の授受に効果的なコンピューターの利用法を理解し、必要なデータや情報を有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集や開示などに関する基本的知識・技能・態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. ワードプロソフトや表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトを用いることができる。 2. ソフトウェア使用上のルールとマナーを説明できる。 3. 電子メールおよび添付ファイルの送信と受信および転送ができる。 4. インターネットを利用した授業に参加できる。 5. ネットワークセキュリティーと使用上のマナーを概説できる。
授業概要	パソコンにてWord、Excel、PowerPointを用いて資料を作成する。 また、インターネットの取り扱いについても学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	Wordを用いて資料を作成①
2	Wordを用いて資料を作成②
3	Excelを用いて表計算を行う①
4	Excelを用いて表計算を行う②
5	ネットワークセキュリティー・使用上のマナーについて
6	インターネットを用いて資料を作成①PowerPoint
7	インターネットを用いて資料を作成②PowerPoint
8	レポート作成

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	心理学	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	樋山 めぐみ	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 心理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。
	〔行動目標〕 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。 2. 動機づけを概説できる。 3. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。 4. 人生や日常生活におけるストレスを概説できる。 5. こころの健康に対する支援を概説できる。 6. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。 7. こころの発達にかかわる要因を概説できる。 8. パーソナリティの特徴を概説できる。 9. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。 10. 文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを列挙できる。 11. 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。 12. 対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。 13. 知能の発達の経年的変化を概説できる。 14. 集団の中の人間関係を概説できる。
授業概要	良好な対人関係（对患者、対同僚、対歯科医等）を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。

日程

回数	授業内容
1	心理学の立場・考え方・研究方法（第15章）
2	①知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視 ②記憶の種類（第1章・第2章）
3	学習；レスポンド条件付け、その他の学習（第2章）
4	①動機づけ 内発的／外発的、社会的、欲求（第3章） ②感情とストレス（第4章）
5	①パーソナリティー 類型論と特性論（第5章） ②知能 知能と知能テスト（第6章）
6	発達理論 主な発達理論（第8章・第9章）
7	対人認知 対人魅力、社会的影響（第10章・第11章）
8	カウンセリングと心理療法（第12章～第14章）
9	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	キャリアデザイン I	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義・演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	

教科書	
備考	各回ごと、各教員が準備
成績評価	各レポート点の総合点、出欠席状況にて評価。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 「働くこと」を自分のこととしてとらえ、自分らしい「キャリアの在り方」についての洞察を深め、将来、社会に出て実践できるように、社会人として求められる姿勢や資質・能力を身につける。
	〔行動目標〕 1. 講師の話を聞き考え自分らしく生きられるキャリアを予測する。 2. 将来を見据えた上で充実した学生生活を過ごすための目標設定ができるとともにその計画に基づいた行動にうつせる。
授業概要	実務経験のある教員が講義をおこなう。

日程

回数	授業内容
1	2040年問題 これからの歯科衛生士に求められること 【講師：ひまわり 歯科理事長 岡本 佳明】
2	GC予防セミナー 【講師：GC 歯科衛生士】
3	ヨシダ 電動歯ブラシセミナー 【講師：ヨシダ 歯科衛生士】
4	歯科で働く保育士子どもとふれあうポイント【講師：ひまわり 歯科保育士 舩田純子】
5	Ns. の役割と急変時の異常に気づくポイント 【講師：】 ひまわり 歯科看護師 奥山 巴
6	ひまわり 歯科で働く歯科衛生士【講師：ひまわり 歯科歯科衛生士 中谷 真奈美】
7	医療安全AEDの使用方法【講師：ひまわり 歯科歯科医師 富永 晋二】
8	iTERO 口腔内スキャナー演習【講師：インビザライン・ジャパン株式会社】

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	キャリアデザイン Ⅱ	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義・演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	

教科書	
備考	各回ごと、各教員が準備
成績評価	各レポート点の総合点、出欠席状況にて評価。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 「働くこと」を自分のこととしてとらえ、自分らしい「キャリアの在り方」についての洞察を深め、将来、社会に出て実践できるように、社会人として求められる姿勢や資質・能力を身につける。
	〔行動目標〕 1. 講師の話を聞き考え自分らしく生きられるキャリアを予測する。 2. 将来を見据えた上で充実した学生生活を過ごすための目標設定ができるとともにその計画に基づいた行動にうつせる。
授業概要	実務経験のある教員・企業DHが講義をおこなう。

日程

回数	授業内容
1	和裁士によるもの作り(裁縫レクチャー)【講師：ひまわり歯科スタッフ 西原 理香】
2	医療安全 針刺し 【講師：ひまわり歯科歯科医師 西中村 亮】
3	言語聴覚士からの話【講師：ひまわり歯科言語聴覚士 中矢 遥菜】
4	管理栄養士からの話 【講師：ひまわり歯科管理栄養士 長谷川 はる】
5	医療安全 防災 【講師：ひまわり歯科歯科医師 西中村 亮】
6	オーラルB電動歯ブラシとメルサーージュ 【講師：株式会社松風 歯科衛生士】
7	ホワイトニングのお話 【講師：株式会社松風 歯科衛生士】
8	広島県歯科衛生士会方からの話 【講師： 広島県歯科衛生士会 砂川様 】

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	生物学	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	大槻 昇平	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 生物学に関する知識を得ることで、解剖学、生理学、生化学、免疫学の土台作りをする。また、昨今明らかになってきた生命科学の新しい概念や技術について知り、臨床歯科医学への足掛かりとする。
	〔行動目標〕 1. からだの仕組みについて理解を深めることで、歯科衛生士となるために必要となる知識を習得する。 2. 遺伝と遺伝子を説明できる。 3. 細胞の構造と機能を説明できる。
授業概要	生物の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得することを目的とする。

日程

回数	授業内容
1	生命とは何か／生命の誕生
2	生命の変遷／生物は細胞からできている
3	細胞の一生と個体の成り立ち／生殖によって子孫をつくる／遺伝と遺伝子
4	発生して体をつくる／刺激の受容と反応
5	内部環境を保つ仕組み
6	動物の行動と進化
7	生物学まとめ
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	プレゼンテーション	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義・演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	河野 雅湖	実務経験	

教科書	
備考	講義の前にプリント配布
成績評価	定期試験の成績で評価。 定期試験はプレゼンテーション発表評価(60%)と平常点(40%)(※出欠席状況、課題提出状況、授業態度)にて評価する。100点満点の60点以上を合格とする。 優(90点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)とする。

科目の目標	〔一般目標〕 必要な情報や意思の伝達を行い集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションソフトを用いることができる。
	〔行動目標〕 1. 聴き手を意識した独創性と説得力のあるプレゼンテーションが行える。 2. 文章や発表を通して、批評力を身につけることができる。 3. 質問に対して的確な応答ができる。
授業概要	プレゼンテーションが何かを理解し、限られた時間で伝えたいことを伝えたい相手に最適な手段を用いて伝えることができ、聴き手を納得させる能力を獲得する。

日程

回数	授業内容
1	プレゼンテーションとは(企画書作成・スピーチ・実技試験評価について)
2	パワーポイントについて(例題資料作成)
3	テーマ別プレゼンテーション準備①
4	テーマ別プレゼンテーション準備②
5	テーマ別プレゼンテーション準備③
6	テーマ別プレゼンテーション準備④ リハーサル①
7	テーマ別プレゼンテーション準備⑤ リハーサル②
8	定期試験(プレゼンテーション発表) 1人3～4分・レポート提出

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	医療倫理	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	上代 妙子	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 倫理問題に配慮して保健・医療・福祉とこれらに関連する研究を行うために、生命と保健・医療・福祉に関わる倫理の重要性を理解する。
	〔行動目標〕 1. 患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供できるように、インフォームド・コンセントやQOLについて説明できる。 2. 患者との人間関係だけでなく、チーム医療の一員として倫理的な判断に基づいた行動がとれる。 3. 医療倫理とともに生命倫理についても理解を深め説明することができる。
授業概要	倫理問題に配慮して歯科医療を行うために、生命と医療にかかわる倫理の重要性を理解する。

日程

回数	授業内容
1	なぜ医療倫理を学ぶのか
2	医療倫理に関する規範とバイオエシックス
3	インフォームド・コンセント
4	研究と医療倫理
5	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動
6	歯科医療従事者に必要とされること
7	医療倫理に関連する規範と法令
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	接遇	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	講義・演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	岩佐 香織	実務経験	

教科書	デンタルスタッフのクリニカルマナー / 医歯薬出版株式会社
参考書	図解 社会人の基本 マナー大全 / 講談社 / 著者：岩下宜子
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 社会人としての心構えや基本的なビジネスマナーの知識と態度を習得し、適切な考えを持って行動できるようになる。
	〔行動目標〕 1. 医療人として必要なマナーを理解し、実践できる。 2. 相手の立場に配慮したコミュニケーションを行い、必要な情報を適切に伝達できる。
授業概要	医療人として必要な基本的な接遇やコミュニケーションを学び、患者や周囲の人と適切に関わるための知識と態度を身につける。

日程

回数	授業内容
1	挨拶、第一印象
2	身だしなみ、立ち居振る舞い
3	コミュニケーション
4	言葉遣い・敬語
5	報連相とSBAR
6	電話・手紙・メールのマナー
7	総復習
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	レクリエーション	分野区分	基礎分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	

教科書	
参考書	
成績評価	授業態度・出欠席などで評価。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 マッサージなどの施術を受けなくても、自分でリラクゼーションを図ることができる セルフコンディショニングツールを学び実践する。
	〔行動目標〕 ストレッチポールやセルフストレッチを使用することを習慣化し、睡眠の質を向上させる。
授業概要	ストレッチポール・ストレッチ・体操

日程

回数	授業内容
1	ストレッチポールの意義・活動内容
2	レクリエーション
3	レクリエーション
4	レクリエーション
5	レクリエーション
6	レクリエーション
7	レクリエーション
8	レクリエーション

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	解剖学 (組織発生学を含む)	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	村田 比呂司	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 身体の一部を解剖学的な名称で表現できる。 2. 組織の定義を説明し、分類できる。 3. 筋・消化器系・呼吸器系の構造を概説できる。 4. 肺循環と体循環を説明できる。 5. 神経系の概略を説明できる(ニューロンを含む)。 6. 骨の基本構造と連結様式を概説できる。
授業概要	1. 人体の成り立ちを理解するために体の構造と機能に関する基本的知識を学ぶ。 2. 組織発生学は人体組織の発生について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	解剖学・組織発生学で学ぶこと
	組織と発生①
2	組織と発生②
3	構造と機能 1)骨格系①
4	1)骨格系②
5	2)筋と運動
6	3)消化・吸収①
7	3)消化・吸収②

8	定期試験
9	構造と機能 4)循環①
10	4)循環②
11	5)感覚
12	6)神経系①
13	6)神経系②
14	7)呼吸 / 8)腎機能と排尿
15	9)内分泌 / 10)生殖、体温
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	生理学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	富永 晋二	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優(90点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)とする。

科目の目標	〔一般目標〕 人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の構成成分、代謝および機能に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科衛生士に必要な、生体反応の機序と恒常性の基本を理解する。
授業概要	教科書とスライドを用いて授業を行う。適宜プリントを配布する。

日程

回数	授業内容
1	生理学概論
2	消化吸收
3	血液と循環
4	感覚と神経系
5	呼吸と腎機能
6	内分泌と生殖
7	体温
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	生化学 (栄養学)	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	吉本 はる	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優(90点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)とする。

科目の目標	〔一般目標〕 人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 栄養学および生化学を学ぶ目的・意義を理解する。 2. 生体構成成分と栄養素について理解する。 3. 消化管で起こる栄養素の消化および吸収について理解する。 4. 細胞内で起こる代謝について理解する。 5. 主要なエネルギー代謝について理解する(糖質、脂質、タンパク質)。 6. 恒常性を保つ仕組みについて理解する。
授業概要	生命現象を分子レベルにまで解きほぐし、化学反応としてとらえる学問が生化学。 生化学の基礎を学び、生命現象を生化学的に理解する。代謝とよばれる化学反応の本質を理解し、栄養学を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	細胞の役割、生体における水
2	消化と吸収、酸素の運搬と二酸化炭素の排出、代謝
3	糖質の代謝とエネルギーの生成
4	脂質の代謝とエネルギーの生成
5	タンパク質とアミノ酸の代謝
6	ビタミン・ミネラル・食物繊維の栄養的意味
7	生体における恒常性の維持

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔解剖学 (口腔組織発生学を含む)	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	永島 望充	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優(90点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)とする。

	〔一般目標〕 顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 顔面ならびに口腔の範囲を説明し、各部位の名称を列挙できる。 2. 顔面ならびに口腔の発生、加齢変化、構成する骨および構造を概説できる。 3. 頭頸部の筋の構成と機能、脈管、神経を概説できる。 4. 三叉神経と顔面神経について説明できる。 5. 咽頭および喉頭の構造を説明できる。 6. 歯と歯周組織の構造と機能を説明できる。
授業概要	顔面、口腔およびその周囲組織を理解するために、口腔とその周囲に関する基本的知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	口腔とその周囲の解剖学①（口腔および構成する骨）
2	口腔とその周囲の解剖学②（頭頸部の筋と作用）
3	口腔とその周囲の解剖学③（顎関節、口腔周囲の脈管）
4	口腔とその周囲の解剖学④（神経）
5	口腔とその周囲の解剖学⑤（唾液腺、咽頭と喉頭の構造）
6	歯の形態①（歯の解剖学総論）
7	歯の形態②（永久歯）

8	定期試験
9	歯の形態③（乳歯）
10	歯の形態④（歯の異常、歯列と咬合）
11	実習（歯牙スケッチ）※右下6番・左下6番
12	歯および歯周組織の構造と機能①
13	歯および歯周組織の構造と機能②
14	歯および歯周組織の発生①（顔面と口腔の発生）
15	歯および歯周組織の発生②（歯と歯周組織の発生）
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔生理学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	渡邊 みな	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優(90点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)とする。

科目の目標	〔一般目標〕 顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 口腔感覚の特徴と神経機構を説明できる。 2. 味覚や嗅覚の仕組みについて説明できる。 3. 下顎の運動や反射、咀嚼を説明できる。 4. 嚥下や嘔吐の意義と神経機構について説明できる。 5. 発声の仕組みや構音のメカニズムを説明できる。 6. 唾液の成分や作用と分泌機構を概説できる。
授業概要	口腔生理は全身の生理と共通の法則に従っていることを学ぶ。口腔の機能がいかに営まれているかを学ぶ。口腔機能として「食べる・飲む」「感じる」「話す」「意思表示をする」「動かす」について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯・口腔、顔面の感覚①
2	歯・口腔、顔面の感覚②
3	味覚・嗅覚①
4	味覚・嗅覚②
5	咬合と咀嚼、吸啜①
6	咬合と咀嚼、吸啜②

7	まとめ①
8	定期試験
9	嚥下、嘔吐①
10	嚥下・嘔吐②
11	発声・発語①
12	発声・発語②
13	唾液①
14	唾液②
15	まとめ②
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔生化学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	吉本 はる	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学 一般社団法人社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 栄養学および生化学を学ぶ意義を理解する。 2. 歯と歯周組織を理解する。 3. 歯の脱灰と再石灰化の仕組みを理解する。 4. 唾液中の無機質や有機質の作用を理解する。 5. 歯周疾患におけるプラークの関わりや生体防御反応について理解する。 6. 食生活と健康の関連について、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。
授業概要	口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク（歯垢）に着目し、その構成成分やそこで生じる現象を生化学的に学ぶ。また、五大栄養素の基本的な役割について学び、食生活習慣などに密着した視点から生化学・栄養学を理解する。

日程

回数	授業内容
1	歯と歯周組織の生化学
2	硬組織の生化学
3	唾液の生化学
4	プラークの生物活性、う蝕発生機構
5	プラークによる口臭発生機構、歯周疾患発症機構
6	食べ物と健康
7	まとめ

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	病理学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	北川 雅恵	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔疾患およびその関連領域の疾患を理解するために、全身の組織、臓器に生じる疾患の本態を教授することによって、口腔疾患の予防、診断に関する歯科衛生士が必要とする臨床歯科医学の基礎を養う。
	〔行動目標〕 1. 病因と疾病の発生機序について説明できる。 2. 疾病の経過と転帰について説明できる。 3. 遺伝性疾患と先天異常の成因について説明できる。 4. 循環障害について説明できる。 5. 代謝障害と退行性病変について説明できる。 6. 増殖と修復について説明できる。 7. 炎症と免疫反応異常について説明できる。 8. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。
授業概要	病気の原因と発症機序、それに伴う形態学的変化の体系の基礎を講義する。

日程

回数	授業内容
1	病理学序論と病因論、遺伝性疾患と先天異常
2	循環障害
3	代謝障害
4	増殖と修復
5	炎症
6	免疫反応異常

7	腫瘍
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔病理学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	北川 雅恵	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔領域に発生する疾病の発症機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 主な歯の発育異常および歯の損傷について説明できる。 2. う蝕の本態を理解し、继发疾患（歯髄炎、根尖性歯周炎）について説明できる。 3. 歯周病の本態を理解し、説明できる。 4. 口腔粘膜疾患、嚢胞について理解する。 5. 口腔領域の腫瘍（歯源性腫瘍、口腔がん）について理解する。
授業概要	本授業では、口腔領域に発生する様々な疾病の病理学的知識を学び、臨床の場において役立つ総合的な基礎知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物
2	う蝕の病因と病態、組織学的分類とその特徴
3	象牙質・歯髄複合体の病態、根尖部歯周組織の病変
4	辺縁部歯周組織の病変
5	口腔粘膜の病変、口腔領域の嚢胞
6	口腔領域の腫瘍、口腔癌
7	顎骨の病変、唾液腺の病変、口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	微生物学 (口腔微生物学)	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	久保 尚也	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 種々の微生物の性質を理解し、感染症と感染予防についての基礎的な知識を修得する。
	〔行動目標〕 1. 感染について理解できる。 2. 免疫について理解できる。 3. 口腔微生物について理解できる。
授業概要	微生物学とは、微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）がどのようにして人に感染し、病気（感染症）を起こすのかという「感染症の成り立ち」を明らかにする学問である。 歯科衛生士にとって必要な知識である微生物と免疫について学ぶことを通して、全身の感染症の成り立ちについて理解する。また、口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、感染予防についての基礎的な知識を修得する。

日程

回数	授業内容
1	『一般微生物学』1章：微生物学の概要、2章：感染
2	3章：微生物学総論
3	4章：微生物の培養、観察と検査
4	5章：化学療法／6章：消毒と滅菌
5	『口腔微生物学』1章：口腔環境と常在微生物／2章：バイオフィルムとしてのプラーク
6	3章：う蝕の細菌学／4章：歯周病の細菌学
7	5章：その他の口腔感染症
8	定期試験

9	『病原微生物学』1章：主な病原細菌
10	2章：歯科に関するウイルスとウイルス感染症①
11	2章：歯科に関するウイルスとウイルス感染症②
12	3章：歯科に関連する真菌／4章：口腔領域の原虫／5章：プリオン
13	『免疫学』1章：免疫
14	2章：アレルギー
15	3章：免疫に関連する疾患
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	薬理学 (歯科薬理学)	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	今濱 優希	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬物に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法について説明できる。 2. 薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品について説明できる。 3. 末梢神経系、中枢神経系に作用する薬物を説明できる。 4. 炎症の過程と抗炎症薬について作用機序と薬理作用を説明できる。 5. 鎮痛薬と局所麻酔薬について作用機序と薬理作用を説明できる。 6. 抗感染症薬と消毒薬について作用機序と薬理作用を説明できる。
授業概要	本授業では、薬物の作用、薬物動態、薬物の取り扱い等の薬理学の基本知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	薬物の作用
2	薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴
3	薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用、有害作用
4	医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い
5	薬物と法律・薬物と医薬品
6	ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物
7	中枢神経系に作用する薬物

8	定期試験
9	循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物
10	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、血液に作用する薬物
11	免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬
12	炎症と薬、痛みと薬
13	局所麻酔薬
14	抗感染症薬、消毒に使用する薬
15	う蝕予防薬、歯内療法薬、歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方医学と薬物
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	衛生学・ 公衆衛生学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	長田 さゆり	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 個人と集団に対する健康障害を予防するために、健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 健康の定義・国民の権利・予防の概念・健康づくりの理念を概説できる。 2. 疫学の定義・疾病の異常の発生要因・疫学研究の方法を説明できる。 3. わが国と世界における人口の現状と推移・人口統計・人口構造・平均寿命などを概説できる。 4. 人間と環境の関係・健康と環境の関係・地球環境・公害・廃棄物の種類等を説明できる。 5. 感染症の概念と感染成立の三要素・感染予防・対策・感染症の分類を説明できる。 6. 食中毒・健康日本21（第二次）における食に関する基本的知識を習得する。 7. 母子保健の概略を説明できる。 8. 学校保健の保健教育と保健管理・健康診断を概説できる。 9. 生活習慣病のリスクファクターを列挙でき、成人保健対策を説明できる。 10. 産業保健の目的・法規・職業性疾患と要因・保健管理体制・THPについて説明できる。 11. 精神保健の定義・大規模災害時の保健医療対策の説明ができる。
授業概要	健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養う ために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに

関する基本的知識を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	総論・疫学
2	人口
3	健康と環境①
4	健康と環境②
5	感染症①
6	感染症②
7	食品と健康
8	定期試験
9	地域保健・公衆衛生①
10	地域保健・公衆衛生②
11	母子保健
12	成人保健
13	産業保健
14	高齢者保健、精神保健
15	災害時の歯科保健、国際保健
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔衛生学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	前川 友紀	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科疾患を予防するために、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯・口腔の健康と予防について説明できる。 2. 口腔清掃について説明できる。 3. 歯科疾患の疫学について説明できる。 4. う蝕の予防について説明できる。 5. フッ化物によるう蝕予防について説明できる。 6. 歯周病の予防について説明できる。 7. その他の疾患・異常の予防について説明できる。
授業概要	個人及び集団に対する歯科疾患の予防および口腔保健の向上を図るための知識および技術を理解し、問題解決に必要な具体的な方策について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	口腔衛生学とは
2	歯・口腔の健康と予防
3	歯・口腔の付着物、沈着物
4	口腔清掃：意義、清掃法、歯磨剤と洗口液・洗口剤
5	歯科疾患の疫学：う蝕、歯周疾患、その他の疫学
6	う蝕の予防（1）う蝕発生のメカニズム、発生要因

7	う蝕の予防（2）う蝕活動性、う蝕の予防法
8	定期試験
9	フッ化物によるう蝕予防
10	歯周疾患の予防（1）症状と分類、発生機序
11	歯周疾患の予防（2）全身に与える影響、予防
12	その他の疾患、異常の予防（1）口内炎、口腔がん、不正咬合
13	その他の疾患、異常の予防（2）顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥
14	ライフステージごとの口腔保健管理（1）目標、母子、小児期の口腔保健
15	ライフステージごとの口腔保健管理（2）成人期、老年期の口腔保健
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	衛生統計学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	大槻 昇平	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 さまざまな保健情報を取捨選択し、科学的な思考で歯科衛生活動ができる医療人となるために、統計学の必要性和その実践方法を取得する。
	〔行動目標〕 1. 保健情報とは、保健統計とは、保健情報の種類、国家統計調査について理解する。 2. 疫学総論、健康障害の発生要因、疫学の方法論、スクリーニングについて理解する。 3. 数量化と指数、う蝕の指数、歯周疾感の指数、口腔清掃状態の指数、不正咬合と歯列不正の指数、歯のフッ素症指数、その他の歯科保健指標について理解する。 4. 保健情報の収集（インターネットによる情報収集）、調査、母集団と標本抽出について理解する。 5. データの特性、記述統計一代表値・散布度・相関、推定と信頼区間、検定、保健情報の多変量解析について理解する。 6. 解析と検定の演習、プレゼンテーション：データの表現について理解し演習する。 7. 情報社会の特性と問題点、情報の開示、個人情報の保護、インターネットと情報倫理（情報モラル）について理解する。
授業概要	科学的な根拠に基づいた医療が求められている現在、歯科衛生活動を展開するためには、必要な保健情報の収集と取捨選択から、収集したデータの処理と解析が必要である。衛生統計ではその方法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
----	------

1	保健情報と保健統計
2	保健情報と疫学
3	歯科疾患の指数
4	保健情報の分析手順
5	保健統計の方法
6	保健情報の分析演習
7	情報の保護と倫理
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	衛生行政	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	長田 さゆり	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生を行うために、日本の保健・医療・福祉の制度と医事法制を理解し、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。
	〔行動目標〕 1. 日本の医療制度を概説できる。 2. 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる。 3. 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列举できる。 4. 薬事衛生法規、保健衛生法規、予防衛生法規を列举し、その概要を説明できる。 5. 憲法第25条で示す社会保障制度の種類を列举できる。 6. 歯科衛生士が関わる社会福祉を説明できる。
授業概要	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生士のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	わが国の医療制度と歯科衛生士①－医療法、歯科医師法
2	わが国の医療制度と歯科衛生士②－歯科衛生士法、歯科技工士法
3	医療関係職種①－保健師助産師看護師法、臨床検査技師等に関する法律
4	医療関係職種②－診療放射線技師法、言語聴覚士法
5	医療関係職種③－薬剤師法、その他の医療関係職種に係る法律
6	その他の関係法規①－地域包括ケアシステム
7	その他の関係法規②－地域保健に関する法律

8	定期試験
9	その他の関係法規③－歯科口腔保健の推進に関する法律
10	その他の関係法規④－薬事に関する法規
11	その他の関係法規⑤－その他の衛生法規
12	社会保障①－社会保障とは
13	社会保障②－社会福祉
14	医療の動向①
15	医療の動向②
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科衛生士概論	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	下野 あゆみ	実務経験	

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 人びとの健康づくりを支援し、口腔健康管理を担う専門職としての基本的態度を理解し、関連する知識・技術・態度を身につけるために論理的な思考の基礎を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科衛生学を概説できる。 2. 歯科衛生士法を説明できる。 3. 歯科衛生の科学的思考の意義を説明できる。 4. 歯科衛生過程のプロセス・構成要素を理解し、グループワークを通して実践することがができる。 5. 患者の権利と医療の責務を説明できる。 6. 歯科衛生士の専門性を概説できる。
授業概要	テキストを用い、歯科衛生学を通して、歯科衛生活動のための理論を理解し、歯科衛生士法のもとでの歯科衛生業務について学ぶ。 この中で医療安全、医療倫理、医療保険制度についても基本的知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生学とは
2	歯科衛生の歴史
3	歯科衛生活動のための理論
4	歯科衛生過程①
5	歯科衛生過程② グループ討論
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務①

7	歯科衛生士法と歯科衛生業務②
8	定期試験
9	歯科衛生士法と歯科衛生業務③
10	歯科衛生士と医療倫理①
11	歯科衛生士と医療倫理②
12	歯科衛生士の活動と組織①
13	歯科衛生士の活動と組織②
14	海外における歯科衛生士
15	総括講義
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	保存修復学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	村田 比呂司	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 保存修復学の概念ならびに基礎的事項を身につけながら、臨床において求められる知識施術法を習得する。
	〔行動目標〕 1. 保存修復の概要について説明できる。 2. 直接法修復について説明できる。 3. 歯の漂白について説明できる。 4. 間接法修復について説明できる。 5. 補修修復について説明できる。 6. 保存修復における歯科衛生士の役割について説明できる。
授業概要	う蝕その他の硬組織疾患に対する保存修復処置の内容と管理について、また処置の前準備と器具・器材の取り扱い、および診療補助時の基本的な知識について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯の保存療法の種類
2	歯および歯周組織の検査
3	保存修復の概要①
4	保存修復の概要②
5	保存修復の概要③
6	直接法修復①
7	直接法修復②

8	定期試験
9	歯の漂白①
10	歯の漂白②
11	間接法修復①
12	間接法修復②
13	間接法修復③
14	補修修復
15	保存修復における歯科衛生士の役割
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯内療法学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	前川 友紀	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士業務に必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法についての知識を修得する。
	〔行動目標〕 1. 歯内療法の対象となる疾患について説明できる。 2. 治療の術式、使用器具、使用薬剤について説明できる。 3. 歯の外傷や歯内療法における安全対策について説明できる。
授業概要	歯科衛生業務をおこなうために必要な、歯に生じる疾患の種類、症状、診断法を理解することを目的とする（歯内療法の分野における内容）。

日程

回数	授業内容
1	歯内療法の概要（1）
2	歯内療法の概要（2）
3	歯髄保存療法
4	歯髄除去療法
5	根管治療の概要・術式（1）
6	根管治療の概要・術式（2）
7	根管充填
8	定期試験
9	根未完成歯の根管処置
10	外科的歯内療法（1）
11	外科的歯内療法（2）

12	歯の外傷（1）
13	歯の外傷（2）
14	歯内療法における安全対策
15	歯内療法における歯科衛生士の役割
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯周病学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	久保 尚也	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯周疾患の分類及びプラークを主とする歯周疾患の原因について理解する。さらに、歯科衛生士の果たす役割についても理解する。
	〔行動目標〕 1. 歯周病の種類と症状を説明できる。 2. 歯周治療の流れを説明できる。 3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。 4. 歯周基本治療の術式と適応症を説明できる。 5. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 6. 口腔機能回復治療の概要を説明できる。 7. 歯周治療後の再評価ができる。 8. 歯周治療後のメンテナンス（SPT）を説明できる。
授業概要	歯周疾患が全身状態に影響することが明らかとなり超高齢社会を迎え、歯周疾患の治療と予防のニーズはますます高まっている。歯科衛生士として治療と予防に積極的に参加介入するために、歯周疾患と歯周療法に関する基礎知識及び診療補助えを行うために必要な 基礎知識を修得する。

日程

回数	授業内容
1	歯周疾患の基礎知識Ⅰ 歯周病の概要，歯周組織の構造と機能を学ぶ
2	歯周疾患の基礎知識Ⅱ 歯肉炎と歯周炎・その他の歯周疾患を理解する
3	歯周疾患の基礎知識Ⅲ 歯周疾患の原因を学ぶ
4	歯周治療の実際Ⅰ 歯周治療の進め方を学ぶ

5	歯周治療の実際Ⅱ 歯周疾患の診査 ― 一般診査，歯周組織破壊の程度の診査，原因となる因子の診査，咬合の診査，画像診断，その他の診査を学ぶ
6	歯周治療の実際Ⅳ 歯周基本治療とは何か？ 目的と効果，基本治療の内容と実際について学ぶ
7	歯周治療の実際Ⅴ スケーリング・ルートプレーニングについて学ぶ
8	定期試験
9	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科① ― 歯周外科治療の目的，分類について学ぶ
10	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科② ― 主な歯周外科手術の適応・術式について学ぶ
11	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科③ ― 歯周外科治療における準備，介助について学ぶ
12	歯周治療の実際Ⅵ 歯周外科④ ― 根分岐部病変，歯周-歯内病変について学ぶ
13	歯周治療の実際Ⅶ 歯周治療としての口腔機能回復治療について学ぶ
14	歯周治療の実際Ⅷ メインテナンスの重要性，時期，内容について学ぶ
15	診療室と器具・器材の管理 器材の滅菌・消毒・管理について学ぶ
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科補綴学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	村田 比呂司	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。
	〔行動目標〕 1. 補綴歯科治療の目的、欠損に伴う生理的变化、補綴装置の種類と特徴を概説できる。 2. 咬合と歯列期に関する用語、基準平面、口腔・顎関節の機能と特徴を説明できる。 3. 補綴歯科治療における検査の種類・特徴を説明できる。 4. クラウン・ブリッジ・有床義歯の種類、特徴、治療の流れ、器材の準備、患者への説明等が実施できる。 5. 特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。
授業概要	テキストを用い、歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯科補綴の概要①
2	歯科補綴の概要②
3	補綴歯科治療の基礎知識－歯列と咬合、補綴学的基準平面
4	補綴歯科治療の基礎知識－口腔の機能、顎関節の構造・機能と病態
5	補綴歯科治療における検査
6	クラウン・ブリッジ治療①
7	クラウン・ブリッジ治療②

8	定期試験
9	有床義歯治療－全部床義歯
10	有床義歯治療－部分床義歯
11	インプラント治療①
12	インプラント治療②
13	特殊な口腔内装置を用いる治療①
14	特殊な口腔内装置を用いる治療②
15	補綴歯科治療における器材の管理
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	口腔外科学・ 歯科麻酔学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	富永 晋二	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士に必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法および治療法を理解する。 歯科治療に必要な疼痛管理、行動調節、全身管理、救命処置を理解する。
	〔行動目標〕 1. 顎口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。 2. 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。 3. 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を概説できる。 4. 抜歯・口腔外科小手術（消炎手術、止血処置、歯槽骨整形術、根尖切除術、嚢胞摘出術・嚢胞開窓術、骨折手術、口腔インプラント手術）の手順を説明できる。 5. 顎口腔領域の周術期（放射線治療、化学療法を含む）の口腔健康管理を説明できる。 6. 局所麻酔の種類と目的ならびに全身的・局所的偶発症を説明できる。
授業概要	教科書とスライドを用いて授業を行う。適宜プリントを配布する。

日程

回数	授業内容
1	口腔外科学の概要、先天異常・発育異常
2	損傷・機能障害
3	口腔粘膜疾患
4	炎症・嚢胞性疾患
5	腫瘍性病変
6	顎関節疾患・唾液腺疾患
7	神経系疾患・血液疾患・口腔心身症

8	定期試験
9	診察・診断、全身疾患
10	口腔外科手術の準備、基本手技
11	口腔外科小手術
12	局所麻酔
13	全身麻酔・鎮静
14	偶発症対応・救命処置
15	口腔健康管理
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	小児歯科学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	渡邊 みな	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。
	〔行動目標〕 1. 小児の身体発育と精神発達を説明できる。 2. 歯列および咬合の発育と口腔機能の発達を説明できる。 3. 乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。 4. 小児の口腔外科的疾患と処置法を説明できる。 5. 口腔機能発達不全症の評価法と対応について説明できる。
授業概要	小児歯科学の基本の理解を深めること。小児の特性を十分に理解して小児歯科診療の補助ができるようになる。

日程

回数	授業内容
1	小児歯科学概論、心身の発育、小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育
2	歯の発育とその異常、歯列咬合の発育と異常
3	小児の歯科疾患、小児虐待
4	小児期の特徴と歯科的問題点、小児歯科における患者との対応法
5	小児歯科における診療体系（1）
6	小児歯科における診療体系（2）
7	障害児の歯科治療、う蝕予防、小児の口腔健康管理
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科矯正学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	永島 望充	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および矯正治療を理解する。
	〔行動目標〕 1. 顎顔面および歯・歯列の成長発育とその評価法を説明できる。 2. 正常咬合の成立条件と種類を説明できる。 3. 不正咬合の種類および原因を説明し、不正咬合による障害を説明できる。 4. 歯科矯正治療の検査と治療の流れ、使用する装置や器材について説明できる。 5. 矯正力と歯の移動様式および固定、保定について説明できる。 6. 矯正治療における口腔健康管理および口腔筋機能療法を説明できる。
授業概要	歯科衛生業務を行うために、必要な不正咬合の症状及び矯正治療を理解する。

日程

回数	授業内容
1	歯科矯正学概論、成長発育
2	咬合
3	検査と診断
4	矯正歯科治療における生体力学と生体反応
5	矯正歯科治療と装置
6	矯正歯科治療の実際①
7	矯正歯科治療の実際①
8	定期試験
9	矯正歯科治療の実際②
10	矯正歯科治療の実際②

11	矯正治療に伴うリスクとその対応
12	矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順
13	矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順
14	口腔筋機能療法〈MFT〉
15	矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	障がい者歯科学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	樋山 めぐみ	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。
	〔行動目標〕 1. 障害の概念が説明できる。 2. 障害の種類・歯科的特徴、歯科保健医療の留意点を説明できる。 3. 障害者の歯科治療を説明できる。 4. 障害者歯科における医療安全を説明できる。 5. 障害児の保健・医療・福祉制度を説明できる。 6. 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。
授業概要	歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する事を目的とする。

日程

回数	授業内容
1	障害者および障害者歯科の定義、ノーマライゼーションについて
2	障害者のある人の医療保健制度
3	精神発達・心理的発達・行動障害・運動障害を有する人の歯科治療
4	感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害を有する人の歯科治療
5	コミュニケーション法・障害のある人への行動調整
6	行動療法・体動コントロール・薬物的行動調整、医療安全について
7	障害者本人および介護者による口腔衛生管理、摂食嚥下リハビリテーションについて
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	高齢者歯科学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	村田 比呂司	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。
	〔行動目標〕 1. 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明する。 2. 高齢者の口腔健康管理と医療安全を説明する。 3. 高齢者の摂食嚥下障害と原因・症状・リハビリテーションを説明する。
授業概要	本授業では、歯科衛生士として必要な高齢者歯科治療の特徴等について講義し、高齢者を取り巻く環境や適切な対応法について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	高齢者を取り巻く社会と環境、高齢者に関する法制度
2	地域包括ケアシステム、高齢者の居住形態
3	加齢による身体的・精神的変化
4	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患
5	高齢者の生活機能の評価、臨床検査、栄養状態
6	高齢者の薬剤服用
7	高齢者の歯科治療時における介助と安全管理
8	定期試験
9	高齢者の口腔健康管理① 口腔アセスメント、急性期の高齢者
10	高齢者の口腔健康管理② 回復期・慢性期・終末期の高齢者
11	摂食嚥下リハビリテーション① 摂食嚥下の評価、嚥下訓練
12	摂食嚥下リハビリテーション② 在宅・介護施設における摂食嚥下リハ

13	高齢者に関わる医療と介護
14	歯科訪問診療
15	高齢者に関わる歯科衛生士の実践
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科放射線学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	佐々木 梨乃	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科疾患の診断および歯科衛生業務に必要な画像検査の意義と関連を理解する。
	〔行動目標〕 1. 放射線の影響と医療における防護について理解する。 2. エックス線画像の形成原理を理解し、管理ができる。 3. 超音波検査、CT、MRIの原理と特徴を理解する。 4. エックス線学所見を概説できる。 5. エックス線撮影の手技を理解する。
授業概要	歯科衛生としてエックス線撮影の意義を理解し撮影に必要な手技と読影について理解することを目的とする。

日程

回数	授業内容
1	歯科医療における放射線学とは
2	放射線の有害事象と防護
3	口内法とパノラマエックス線撮影①
4	口内法とパノラマエックス線撮影②
5	超音波検査・CT・MRI・造影検査・核医学検査
6	エックス線画像の観察
7	放射線治療と口腔管理
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科予防処置Ⅰ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	辰己 千晶	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。
	〔行動目標〕 1. 歯科予防処置の概念と内容を概説できる。 2. 歯周病予防を概説できる。 3. う蝕予防を概説できる。 4. 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる。 5. 歯周病リスクの情報収集・記録と評価・計画ができる。
授業概要	歯科予防処置を実施する為に必要な基礎知識を習得する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	歯科予防処置論の概要
2	口腔の基礎知識① 口腔・口腔周囲の構造、歯周組織、歯冠と歯根の形態
3	口腔の基礎知識② 口腔の機能
4	う蝕の基礎知識① 口腔内の付着物・沈着物
5	う蝕の基礎知識②
6	歯周病の基礎知識①
7	歯周病の基礎知識②
8	定期試験

9	検査項目・歯周検査、ミラーテクニック① マネキン取り扱い
10	検査項目・歯周検査、ミラーテクニック②
11	検査項目・歯周検査、ミラーテクニック③
12	歯周検査 [マネキン実習]
13	歯周検査 [相互実習]
14	分析のためのデータ
15	分析のためのデータ [検査実習]
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科予防処置Ⅱ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	4
		時間数	60
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	辰己 千晶	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯周病リスクの評価方法を説明できる。 2. う蝕活動試験を実施し、対象者の評価、プログラムを立案できる。 3. スケーラーの種類と使用目的を説明できる 3. 各種スケーラーを操作し、歯周ポケット内のイリゲーション（洗浄）ができる。 4. シャーピングができる。 5. SPTの目的を理解し、処置内容を説明できる。
授業概要	歯科予防処置を実施する為に必要な基礎知識を習得する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	分析のためのデータ 復習
2	歯周病に関する検査
3	う蝕に関する検査
4	う蝕活動試験 [卓上実習]
5	う蝕活動試験 検査後 [卓上実習]
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置・手用スケーラー・ポジショニング
7	スケーラーの種類と操作方法 シックルタイプスケーラー

8	シックルタイプスケーラー [マネキン実習]
9	シックルタイプスケーラー [相互実習]
10	スケーラーの種類と操作方法 グレーシータイプスケーラー①
11	スケーラーの種類と操作方法 グレーシータイプスケーラー②
12	シャープニング
13	シャープニング [卓上実習①]
14	シャープニング [卓上実習②]
15	シャープニング [卓上実習③]
16	定期試験
17	機械的スケーラー・バキューム操作
18	機械的スケーラー・バキューム操作 [マネキン自習]
19	機械的スケーラー・バキューム操作 [相互実習①]
20	機械的スケーラー・バキューム操作 [相互実習②]
21	歯面研磨・歯面清掃
22	歯面研磨 [マネキン実習①]
23	歯面研磨 [マネキン実習②]
24	歯面研磨 [相互実習①]
25	歯面研磨 [相互実習②]
26	歯面清掃器
27	歯面清掃器 [マネキン実習]
28	歯面清掃器 [相互実習]
29	SPTについて
30	メンテナンスについて
31	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科予防処置Ⅲ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	4
		時間数	60
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	辰己 千晶	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する
	〔行動目標〕 1. フッ化物歯面塗布の使用薬剤の種類と濃度、および取り扱い方法を説明できる。 2. フッ化物歯面塗布塗布を実施できる。 3. フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤の実施ができる。 4. 小窩裂溝充塞法を実施できる。 5. ルートプレーニングができる。
授業概要	歯科予防処置を実施する為に必要な基礎知識を習得する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布・フッ化物洗口
2	フッ化物歯面塗布・洗口 〔相互実習〕
3	フッ化物配合歯磨剤
4	フッ化物の毒性と急性中毒への対応
5	ライフステージ別のフッ化物局所応用
6	小窩裂溝充塞法
7	小窩裂溝充塞法 〔卓上での実習〕
8	小窩裂溝充塞法 〔相互実習①〕

9	小窩裂溝充塞法 [相互実習②]
10	グレーシータイプスケーラー 復習
11	シャープニング 復習
12	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 上顎前歯部
13	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 下顎前歯部
14	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 上顎臼歯部①
15	定期試験
16	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 上顎臼歯部②
17	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 下顎臼歯部①
18	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] 下顎臼歯部②
19	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] まとめ①
20	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] まとめ②
21	グレーシータイプスケーラー [マネキン実習] まとめ③
22	[SRP相互実習] 上顎前歯部
23	[SRP相互実習] 下顎前歯部
24	[SRP相互実習] 上顎臼歯部①
25	[SRP相互実習] 上顎臼歯部②
26	[SRP相互実習] 下顎臼歯部①
27	[SRP相互実習] 下顎臼歯部②
28	[SRP相互実習] まとめ①
29	[SRP相互実習] まとめ②
30	[SRP相互実習] まとめ③
31	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科予防処置Ⅳ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	辰己 千晶	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する
	〔行動目標〕 1. 歯科予防処置の説明ができる。 2. 歯科予防処置の施術ができる。
授業概要	歯科予防処置の実習を一連で行うことにより、技術の向上を目指す。

日程

回数	授業内容
1	まとめ相互実習 歯周基本検査 プロービング、動揺度、歯石の有無①
2	まとめ相互実習 歯周基本検査 プロービング、動揺度、歯石の有無②
3	まとめ相互実習 PMTC(上顎)
4	まとめ相互実習 PMTC(下顎)
5	まとめ相互実習 ハンドスケーリング①
6	まとめ相互実習 ハンドスケーリング②
7	定期試験
8	まとめ相互実習 ハンドスケーリング③
9	まとめ相互実習 超音波スケーリング①
10	まとめ相互実習 超音波スケーリング②
11	まとめ相互実習 超音波スケーリング③
12	相互実習 歯周検査～スケーリング・PMTC・フッ化物塗布までの一連の工程すべて①

13	相互実習 歯周検査～スケーリング・PMTC・フッ化物塗布までの一連の工程すべて②
14	相互実習 歯周検査～スケーリング・PMTC・フッ化物塗布までの一連の工程すべて③
15	まとめ相互実習 振り返り
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科衛生課程	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	辰己 千晶	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために専門的な知識、技術および態度を学ぶ。
	〔行動目標〕 1. 歯科衛生士の基礎となる適切なコミュニケーションをとることができる。 2. 多面的なアセスメントができる。 3. 歯科衛生アセスメントに基づいた歯科衛生診断ができる。 4. 歯科衛生計画の立案と計画に基づいた歯科衛生介入ができる。 5. インフォームド・コンセント、インフォームド・アセスメントができる。 6. 歯科衛生介入結果が評価できる。 7. 歯科衛生過程における歯科衛生業務の記録ができる。
授業概要	歯科衛生過程の知識を深め、ワークショップを通して実践し書類の作成の精度をあげる。

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生過程の概論
2	歯科衛生アセスメント・ワークショップ
3	歯科衛生診断・ワークショップ
4	歯科衛生計画と介入・ワークショップ
5	歯科衛生評価と記録・ワークショップ
6	歯科衛生アセスメント～記録までのまとめワークショップ①
7	歯科衛生アセスメント～記録までのまとめワークショップ②

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科保健指導Ⅰ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	岩井 三賀	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために専門的な知識、技術および態度を学ぶ。
	〔行動目標〕 1. 歯科保健指導の意義と特性をを説明できる。 2. 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。 3. 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。 4. 歯科衛過程の流れに沿って業務記録をまとめることができる。 5. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。
授業概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学びます。

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 歯科保健指導の概要・目的
2	行動変容に関連する理論・行動変容を促す理論の実践
3	*口腔衛生状態の理解①歯垢染色の実践（綿棒塗布）、実習室取り扱い説明
4	*口腔衛生状態の理解②各種歯垢染色方法・ブラッシング
5	口臭
6	口腔衛生状態の指数 ①PCR・OHI

7	口腔衛生状態の指数 ②OHI-S・PHP・PLI他
8	定期試験
9	歯周疾患・う蝕の指数（PMA・GI・PI・CPI・DMF他）①
10	歯周疾患・う蝕の指数（PMA・GI・PI・CPI・DMF他）②
11	口腔衛生管理に係わる指導①歯ブラシ・歯磨剤
12	口腔衛生管理に係わる指導②ブラッシングの方法・デンタルフロス
13	口腔衛生管理に係わる指導③歯間ブラシ・タフトブラシ
14	口腔衛生管理に係わる指導④粘膜ブラシ・スポンジブラシ・保湿剤
15	口腔衛生管理に係わる指導⑤舌ブラシ・義歯用ブラシ・口腔ケア用具・洗口液
16	定期試験

*：実習授業

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科保健指導Ⅱ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	4
		時間数	60
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者（個人、集団、組織、地域）の情報について収集方法を習得する。口腔衛生管理を行うために対象者の問題点を把握し必要な知識、技術および 態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科保健指導の意義と特性をを説明できる。 2. 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。 3. 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。 4. 歯科衛過程の流れに沿って業務記録をまとめることができる。 5. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。
授業概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学びます。

日程

回数	授業内容
1	口腔内観察実習 全体像の理解・付着物沈着物の理解
2	* 口腔衛生状態診査実習①PCR
3	* 口腔衛生状態診査実習②PCR
4	* 口腔衛生状態診査実習③PCR
5	口腔衛生状態診査実習④OHI・OHI-s
6	患者からの情報収集①主観的情報の把握・医療面接

7	患者からの情報収集②全身の健康状態の把握
8	患者からの情報収集③医療面接の実習
9	口腔機能管理に関わる指導
10	生活習慣の指導
11	喫煙者に対する指導
12	禁煙指導媒体づくり
13	禁煙指導媒体づくり
14	* 禁煙指導媒体を使って保健指導実習
15	ストレスマネジメント
16	定期試験
17	* 口腔衛生状態診査実技テスト（PCR）
18	地域歯科保健指導における健康教育①
19	地域歯科保健指導における健康教育②
20	地域歯科保健指導における健康教育③
21	地域歯科保健活動のフィールド①
22	地域歯科保健活動のフィールド②
23	地域歯科保健活動のフィールド③
24	地域歯科保健活動のフィールド④
25	地域歯科保健活動のフィールド⑤
26	媒体づくり
27	媒体づくり
28	媒体づくり
29	媒体づくり・発表準備練習
30	媒体づくり・発表テスト
31	定期試験

*：実習授業

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科保健指導Ⅲ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	岩井 三賀	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績と提出物で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科保健指導の意義と特性をを説明できる。 2. 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。 3. 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。 4. 歯科衛過程の流れに沿って業務記録をまとめることができる。 5. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。
授業概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学びます。

日程

回数	授業内容
1	対象者別歯科保健指導①妊産婦指導に対する口腔清掃
2	対象者別歯科保健指導①妊産婦指導説明媒体づくり
3	対象者別歯科保健指導②乳児に対する口腔清掃
4	対象者別歯科保健指導②乳児指導説明媒体作り
5	対象者別歯科保健指導③幼児期に対する口腔清掃
6	対象者別歯科保健指導③乳幼児指導説明媒体づくり
7	対象者別歯科保健指導④学童期に対する口腔清掃
8	対象者別歯科保健指導④学童期指導説明媒体づくり

9	対象者別歯科保健指導⑤青年期に対する口腔清掃
10	対象者別歯科保健指導⑤青年期指導説明媒体づくり
11	対象者別歯科保健指導⑥成人期に対する口腔清掃
12	対象者別歯科保健指導⑥成人期指導説明媒体づくり
13	対象者別歯科保健指導⑦老年期に対する口腔清掃
14	対象者別歯科保健指導⑦老年期指導説明媒体づくり
15	対象者別歯科保健指導まとめ・媒体仕上げ
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科保健指導Ⅳ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	○
	下野 あゆみ		○

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績提出物とで評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 患者一人ひとりの口腔ケア方法を指導し、むし歯や歯周病を予防するための知識や健康意識を高める能力を養うこと
	〔行動目標〕 1. 歯科保健指導の意義と特性をを説明できる。 2. 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。 3. 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる。 4. 歯科衛過程の流れに沿って業務記録をまとめることができる。 5. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる。
授業概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学びます。

日程

回数	授業内容
1	症例別保健指導①間食指導
2	症例別保健指導①間食指導説明媒体づくり
3	症例別保健指導②クラウン・ブリッジ・義歯装着への口腔指導
4	症例別保健指導②クラウン・ブリッジ・義歯装着指導説明媒体づくり
5	症例別保健指導③矯正装置者に対する口腔清掃
6	症例別保健指導④インプラント装着者に対する口腔清掃
7	症例別保健指導④矯正装置・インプラント装着者説明媒体づくり

8	症例別保健指導⑤周術期の口腔衛生管理
9	症例別保健指導⑥障害者への歯科保健指導方法（特徴・対応）
10	症例別保健指導⑦禁煙ステージと禁煙支援
11	要介護高齢者への歯科保健指導要介護高齢者の理解
12	要介護高齢者への歯科保健指導要介護高齢者の理解（自立度判定）／ 口腔体操
13	要介護高齢者への歯科保健指導要介護高齢者の理解（口腔ケア）／ 口腔体操
14	障害児者の一般的特徴
15	大規模災害被災者
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	栄養・食生活	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	吉本 はる	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ ①歯科予防処置論・歯科保健指導論 ②人体の構造と機能3 栄養学 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 ライスステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、対象者の問題点を把握し専門的知識、技術および態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 食生活と栄養摂取状況の変遷と現状を説明できる 2. 日本人の食事摂取基準と栄養素の指標を説明できる 3. 健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて歯科衛生士としての役割を理解する 4. 食事バランスガイド、食品群の分類と特徴を説明できる 5. 各ライフステージにおける栄養の要点と調理の特性について説明できる
授業概要	対象者個人への食生活指導を行う際には、栄養素の基礎知識および食習慣と健康の関連についての理解が必要である。健康の維持や増進を目的とした保健指導のなかでも、食生活指導は食べるための器官である歯や口腔の状態と深く関わっている。 正しい知識を学び、歯科保健指導に活かす。

日程

回数	授業内容
1	食生活と栄養、栄養素の消化・吸収
2	基礎代謝、エネルギー必要量、日本人の食事摂取基準
3	国民の健康と栄養の現状、望ましい食生活
4	食品の分類と特徴、食事バランスガイドの活用
5	成長期における栄養と調理の特性

6	成人期における栄養と調理の特性
7	高齢期における栄養と調理の特性
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	摂食嚥下 リハビリ テーション学	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	村田 尚道	実務経験	○

教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 公益社団法人歯科衛生士会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士としての専門性を生かした関わり方について考えを深め、多職種と協働して摂食嚥下リハビリテーションを実践するための基本的知識および態度を修得する。
	〔行動目標〕 1. 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割について説明できる。 2. 摂食嚥下機能のメカニズムと発達・衰退について説明できる。 3. 摂食嚥下障害患者の栄養管理、リスク管理について説明できる。 4. 摂食嚥下障害の症状について説明できる。 5. 摂食嚥下機能の評価が実施できる。 6. 摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。 7. 摂食嚥下訓練の手技が実施できる。
授業概要	口から食べることは、歯科医療のゴールの一つであり、その機能と問題点を理解することは歯科衛生士にとって非常に重要です。また、全身の健康を守る上で、「食べる口を支える」ことは重要視されており、多職種協働のチームアプローチの中で、歯科衛生士の役割は重要になっています。本科目では、摂食嚥下リハビリテーション（摂食機能療法）を行う上で必要な知識と手技を身につけた歯科衛生士の養成を目標として、講義・実習・演習を行います。

日程

回数	授業内容
1	摂食嚥下リハビリテーション 総論、摂食嚥下障害者への口腔管理
2	摂食嚥下機能のメカニズムと発達・衰退
3	摂食嚥下障害患者の栄養・リスク管理

4	摂食嚥下障害とは（小児・成人・高齢者）
5	摂食嚥下障害の評価（講義・実習）
6	摂食嚥下リハビリテーション（講義・実習）
7	摂食嚥下リハビリテーションの計画立案（演習）
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科診療補助Ⅰ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	河野 雅湖	実務経験	○
	小林 遥香		○

教科書	歯科衛生学シリーズ ①歯科診療補助 ②歯科材料 ③歯科機器 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績・実技試験・平常点（出欠状況・授業態度など）で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。 また歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯の基礎知識について説明できる。 2. 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を説明することができる。 3. フォーハンドシステムの基本動作、診療に応じたバキューム操作ができる。 4. スタンダードプレコーション、医療廃棄物の取り扱いができる。 5. 消毒・滅菌・洗浄を説明できる。 6. アルジネート印象材・模型材の取り扱いができる。
授業概要	歯科診療補助における歯科衛生士の役割について理解する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	基礎歯科（歯の構造・歯式等について）①
2	基礎歯科（歯の構造・歯式等について）②
3	歯科診療の概念（補助と介助の違い、歯科衛生士の役割、チーム医療の必要性）・医療安全と感染予防（スタンダードプリコーション・インシデント・アクシデント）
4	感染予防（リスクアセスメント・消毒・滅菌・医療廃棄物）
5	手指消毒（実習）

6	保存修復（口腔内診査について）
7	歯科診療における基礎知識
8	定期試験
9	アルジネート印象材・模型材について
10	アルジネート印象材（実習）
11	共同動作（フォーハンドデンティストリー、バキューム操作）
12	共同動作実習（実習室の取り扱い・フォーハンドシステム・バキューム操作）
13	衛生材料
14	保存修復（ガラスアイオノマーセメント修復）①
15	保存修復（レジン充填）②
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科診療補助Ⅱ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	60
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	河野 雅湖	実務経験	○
	小林 遥香		○

教科書	歯科衛生学シリーズ ①歯科診療補助 ②歯科材料 ③歯科機器 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績・実技試験・平常点（出欠状況・授業態度など）で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。 また歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。 保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。
	〔行動目標〕 1. 模型材・合着、接着剤・印象材・仮封材・ワックスの種類と基礎的性質が説明できる。 2. 模型材・合着、接着剤・印象材・仮封材・ワックスの取り扱いができる。 3. コンポジットレジン修復・インレー修復・グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。 4. 歯髄処置の手順を説明できる。 5. 根管処置の薬剤や器材の取り扱いができる。
授業概要	歯科診療補助における歯科衛生士の役割について理解する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	隔壁・歯肉圧排・歯間分離（実習含む）
2	隔壁・歯肉圧排・歯間分離実習
3	隔壁・歯間分離実習（実技試験）
4	レジン充填受け渡し実習

5	5級窩洞レジン充填実習
6	インレー修復・印象材・模型材
7	印象材・模型材・ワックスについて
8	3級窩洞レジン充填実習
9	アルジネート印象材実習（片顎トレー・回転トレー）
10	アルジネート印象材実習（実技テスト）
11	アルジネート印象材（相互実習）
12	寒天印象材・ゴム質印象材・ワックス
13	ゴム質印象材実習
14	アルジネート印象材・寒天印象材実習
15	アルジネート印象材（全顎トレー）
16	定期試験
17	アルジネート印象材（相互実習）全顎印象採得
18	スタディーモデル作製実習
19	仮封材実習①（酸化亜鉛ユージノールセメント・カルボン酸系セメント）
20	仮封材実習②（ストップピング・水硬性仮封材・レジン系仮封材）
21	合着用セメント①（ポリカルボキシレート・グラスアイオノマー）
22	合着用セメント実習①（ポリカルボキシレート・グラスアイオノマー）
23	合着用セメント②（リン酸亜鉛セメント・その他のセメント）
24	合着用セメント実習②（リン酸亜鉛セメント・その他のセメント）
25	仮封材・合着材セメント実習（実技テスト）
26	歯内療法①（概要・鎮静・切断）
27	歯内療法②（抜髄）
28	歯内療法③（根管充填・外科的歯内療法・ホワイトニング）
29	歯内療法器材確認（綿栓巻実習）
30	歯内療法器材確認実習
31	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科診療補助Ⅲ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	4
		時間数	60
		履修年次	2学年
		実施学期	前期
教員名	河野 雅湖	実務経験	○
	小林 遥香		○

教科書	歯科衛生学シリーズ ①歯科診療補助 ②歯科材料 ③歯科機器 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績・実技試験・平常点（出欠状況・授業態度など）で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 歯周病の検査方法、治療方針、術式を説明することができる。 2. 歯周外科治療の術式と適応症、器具の用途を説明できる。 3. クラウン・ブリッジ、義歯、インプラントの種類、治療に必要な器具の用途を説明できる。 4. 矯正治療に必要な装置、器具の名称と用途を説明できる。 5. 小児の歯科治療における器具の名称と用途を説明できる。 6. ラバーダム防湿の目的、必要な器具の名称と用途を説明できる。
授業概要	歯科診療補助における歯科衛生士の役割について理解する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	歯周療法①
2	歯周療法②
3	歯周療法③
4	歯周パック実習
5	補綴①（補綴の種類）
6	補綴②（器材確認）
7	補綴③（術後説明）

8	補綴④（器材確認・歯肉圧排実習）
9	プロビジョナルレストレーション作製実習①
10	プロビジョナルレストレーション作製実習②
11	口腔外科・麻酔①（術式・術後説明）
12	口腔外科・麻酔②（抜歯器材確認実習）
13	口腔外科・麻酔③（抜歯器材確認実習）
14	口腔外科・麻酔④ 周術期について
15	定期試験
16	小児歯科①（行動変容法）
17	小児歯科②（行動変容法）
18	小児歯科③（乳歯金属冠・乳歯レジン冠）
19	小児歯科④（ラバーダム防湿）
20	ラバーダム実習①
21	ラバーダム実習②
22	ラバーダム実習③
23	ラバーダム実習④
24	矯正①（矯正装置確認）
25	矯正②（矯正装置確認）
26	矯正③（器材確認）
27	矯正④（器材確認）
28	矯正実習①（器材・用途確認実習）
29	矯正実習②（器材・用途確認実習）
30	矯正⑤（注意点など）
31	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科診療補助Ⅳ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	講義・演習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	30
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	河野 雅湖	実務経験	○
	小林 遥香		○

教科書	歯科衛生学シリーズ ①歯科診療補助 ②歯科材料 ③歯科機器 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績・実技試験・平常点（出欠状況・授業態度など）で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。
	〔行動目標〕 1. 高齢者における口腔健康管理の用具と体位、姿勢を説明できる。 2. 障害児・者の行動調整と歯科衛生実践に必要な注意点を理解している。 3. 摂食嚥下障害について説明できる。 4. 放射線防護の基準と方法を説明できる。 5. 口内法画像・パノラマ画像の読影ができる。
授業概要	歯科診療補助における歯科衛生士の役割について理解する。 また実習を行なうことで、より理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	高齢者歯科①（高齢者の特徴・治療時の注意点）
2	高齢者歯科②
3	障がい者歯科①（障害の種類と特徴）
4	障がい者歯科②（障害児者の口腔内の特徴）
5	障がい者歯科③
6	口腔機能管理実習①（口腔機能低下症とは。口腔機能評価）
7	口腔機能管理実習②（口腔機能訓練）
8	定期試験
9	臨床検査実習（モニターの取り扱い）

10	放射線①（口内法・口外法）
11	放射線②（マウント）
12	放射線実習①パノラマ・デンタル
13	放射線実習②マウント
14	口腔内写真实習（5枚法）①
15	口腔内写真实習（5枚法）②
16	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	臨床検査法	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	北川 雅恵	実務経験	○

教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 患者から得られる情報を過不足なく収集し解釈するために医療面接および各種基本的な臨床検査を実施し、その意味を理解していなくてはならない。そのため本講義では、患者の健康状態や全身疾患を把握するための医療情報の聴取、歯科疾患の診断および歯科衛生士業務の実施に必要な基本的検査、および全身の一般検査の意義と関連を理解する事を目標とする。
	〔行動目標〕 1. 臨床検査と歯科衛生士の役割について説明できる。 2. 病院等で実際に行われている生理機能検査について説明できる。 3. 口腔領域の臨床検査を説明できる。
授業概要	教科書をもとに歯科医療における臨床検査を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	1章：臨床検査と歯科衛生士の役割 / 2章：生理機能検査
2	3章：血液学的検査 / 4章：感染症の検査
3	5章：肝機能の検査 / 6章：腎機能の検査
4	7章：糖尿病の検査 / 8章：代謝・内分泌疾患の検査 / 9章：免疫・血清学的検査
5	10章：病理学的検査 / 11章：画像検査
6	12章：口腔領域の臨床検査
7	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	臨床実習Ⅰ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	45
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	臨床実習指導医・ 指導歯科衛生士	指 実務経験	○

成績評価	実習指導者の評価、出席状況、実習記録、態度等を総合して評価する。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。
------	--

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士の役割を理解するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士としての必要な実践力を身につける。
	〔行動目標〕 1. 歯科医院の1日の流れを学ぶ。 2. これまで修得した知識・技術について臨床との結びつきを学ぶ。 3. 社会人の一員としての態度を身につける。 4. メディカルスタッフの一員としての役割を学ぶ。 5. 地域歯科保健の場での歯科衛生士の役割を学ぶ。
授業概要	臨床実習では履修した講義・実習によって修得した基礎的な知識や技術を論理的に整理し、それぞれの現場において歯科衛生士の業務の実践に関わりながら、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解を体系的に深める。また、歯科医療の現場においてメディカルスタッフの一員としての資質を高め、チーム医療の体制を理解し、患者・スタッフのコミュニケーション能力を身に付ける。

日程

	授業内容
1	〈臨床実習〉 7月下旬（6日間） 一般診療所にて見学・介助実習

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	臨床実習Ⅱ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	臨床実習指導医・ 指導歯科衛生士	指 実務経験	○

成績評価	実習指導者の評価、出席状況、実習態度、実習記録等を総合して評価する。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。
------	--

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士の役割を理解するために、診療所などの歯科診療の場を通して歯科衛生士としての必要な実践力を身につける。
	〔行動目標〕 学内での既習内容を臨床の場で結び付けることにより、歯科衛生士としての役割と業務を理解し、実行することができる。 履修科目：保存修復学・歯内療法学・歯周病学・歯科補綴学・小児歯科・歯科矯正学・口腔外科学・歯科麻酔学・高齢者歯科学・障がい者歯科学
授業概要	臨地実習では履修した講義・実習によって修得した基礎的な知識や技術を論理的に整理し、それぞれの現場において歯科衛生士の業務の実践に関わりながら、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解を体系的に深める。また、歯科医療の現場においてメディカルスタッフの一員としての資質を高め、チーム医療の体制を理解し、患者・スタッフのコミュニケーション能力を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	12月上旬から中旬（11日間） 一般診療所にて介助実習

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	臨地実習Ⅰ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	16
		時間数	720
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	臨地実習指導医・ 指導歯科衛生士 指	実務経験	○

成績評価	実習指導者の評価、出席状況、実習態度、実習記録等を総合して評価する。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。
------	--

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士の役割を理解するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。
	〔行動目標〕 1. 歯科医師、スタッフ、患者とのコミュニケーションがとれる。 2. 診療の流れを理解し、適切な行動がとれる。 3. 歯科衛生士の業務を臨床の場で実行する。 4. 自ら思考し、実施する態度を身に付ける。 5. 症例の把握および治療の実際、記録、報告の仕方を学ぶ。 6. 歯科衛生士としての態度を身に付ける。
授業概要	臨地実習では履修した講義・実習によって修得した基礎的な知識や技術を論理的に整理し、それぞれの現場において歯科衛生士の業務の実践に関わりながら、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解を体系的に深める。また、歯科医療の現場においてメディカルスタッフの一員としての資質を高め、チーム医療の体制を理解し、患者・スタッフのコミュニケーション能力を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	臨地実習：20週 実習施設：一般歯科、病院歯科、矯正歯科、保育園、幼稚園、介護施設

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	臨地実習Ⅱ	分野区分	専門分野
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	45
		履修年次	3学年
		実施学期	後期
教員名	臨地実習指導医・ 指導歯科衛生士 指	実務経験	○

成績評価	実習指導者の評価、出席状況、実習態度、実習記録等を総合して評価する。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。
------	--

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士の役割を理解するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な実践力を身につける。
	〔行動目標〕 1. 歯科医師、スタッフ、患者とのコミュニケーションがとれる。 2. 診療の流れを理解し、適切な行動がとれる。 3. 歯科衛生士の業務を臨床の場で実行する。 4. 自ら思考し、実施する態度を身に付ける。 5. 症例の把握および治療の実際、記録、報告の仕方を学ぶ。 6. 歯科衛生士としての態度を身に付ける。
授業概要	臨地実習では履修した講義・実習によって修得した基礎的な知識や技術を論理的に整理し、それぞれの現場において歯科衛生士の業務の実践に関わりながら、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解を体系的に深める。また、歯科医療の現場においてメディカルスタッフの一員としての資質を高め、チーム医療の体制を理解し、患者・スタッフのコミュニケーション能力を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	臨地実習：2週 実習施設：一般歯科、病院歯科、矯正歯科、保育園、幼稚園、介護施設

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	保険請求事務	分野区分	選択必修分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	2学年
		実施学期	後期
教員名	岩佐 香織	実務経験	

教科書	シエン社 アイデンタルサービス 受付事務と医療保険制度（練習問題付） 一般社団法人社団全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 医療保険制度を理解し、カルテ・レセプトの作成方法を学ぶ。
	〔行動目標〕 1. 医療保険について概説することができる。 2. 保険請求の仕組みについて説明することができる。 3. カルテ（表）を漏れなく記入することができる。 4. 症例ごとにレセプトをまとめることができる。
授業概要	医療保険制度を理解し、カルテ、レセプトの作成方法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	社会保障、医療保険制度について（種類・保険診療の仕組み）
2	カルテ・レセプトの作成方法、保健請求の仕組み
3	カルテ・レセプトの作成①
4	カルテ・レセプトの作成②
5	カルテ・レセプトの作成③
6	カルテ・レセプトの作成④
7	カルテ・レセプトの作成⑤
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	手話	分野区分	選択必修分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	岩佐 香織	実務経験	

教科書	
参考書	歯科医院で使う手話読本 やってみよう！ 手話で簡単コミュニケーション 受付事務と医療保険制度（練習問題付） 監修：藤田雄三・谷千春
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 外見から見て分かりにくい聴覚障害者のことを理解し、歯科医院での聴覚障害者への対応について学ぶ。手話で自己紹介や簡単な会話ができるように習得する。
	〔行動目標〕 1. 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができる。 2. 歯科の現場で使われる手話ができる。
授業概要	参考書を基に、歯科医院での場面を想定し、単語や例文を実践して学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	手話について、コミュニケーション
2	口腔内観察と指導 1～10
3	口腔内観察と指導 11～18
4	ブラッシング指導
5	窓口
6	歯科で使われる単語集
7	指文字
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	歯科介護学	分野区分	専門基礎分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	政田 晴	実務経験	

教科書	高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 要介護者の病状、心身の状況およびその置かれている環境を的確に把握し、口内環境を整備し確実に食物を捉え、よく噛みおいしく味わい、うまく嚥下し会話を楽しみ笑顔で日常生活ができるように支援する知識・技術を修得する。
	〔行動目標〕 1. 歯科医院にてなぜ介護・介助スキルが必要であることを説明できる。 2. 要介護者に対する適切なコミュニケーションを実施できる。 3. 要介護者への対応方法を理解し説明できる。
授業概要	要介護者の歯科診療に安心して対応していくために、実践的な介護の基礎知識や技術、態度を身につける。

日程

回数	授業内容
1	なぜ介護・介助スキルが必要か(序論)
2	要介護者、要介護高齢者に対するコミュニケーションのポイント
3	歯科診療所・施設での要介護者への対応
4	寝たきり要介護者への対応
5	実習(歯科医院)
6	要介護者への対応を充実させるための必要な技術、試験前まとめ
7	定期試験
8	試験解説、介護に関するDVDの鑑賞

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	おもてなし学	分野区分	選択必修分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	3学年
		実施学期	後期
教員名	岩佐 香織	実務経験	

教科書	
参考書	おもてなし学理論 / 株式会社パレード 著者：国際おもてなし協会 おもてなしラボ
成績評価	定期試験の成績で評価。 なお、定期試験は筆記試験と実技試験を行い、100点満点の60点以上を合格とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 おもてなしの意味を理解し、おもてなしのスキルとビジネスマナースキルを身に付け 実生活や歯科医療現場で実践できるようになる。
	〔行動目標〕 1. おもてなしの意味を理解し、説明できる。 2. 歯科医療現場で必要なおもてなしを身に付け、実践できる。 3. 正しい言葉遣いとマナーを身に付け、実践できる。
授業概要	おもてなしについて学び、実技演習を取り入れ、おもてなしのスキルとビジネスマナースキルの知識と態度を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	「おもてなし」とは
2	歯科医療現場でのおもてなし
3	ビジネスマナー・身だしなみについて
4	言葉遣いの基本
5	ビジネス文書の作成（手紙・ハガキ・履歴書等）
6	第一印象の大切さ・好印象を与えるポイント（訪問時・面接時等）
7	総復習（実技含む）
8	定期試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	総合学習	分野区分	選択必須分野
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必須科目
		単位数	7
		時間数	105
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	岩井 三賀・河野 雅湖	実務経験	
	辰己 千晶・小林 遥香		
	多田 和波・政田 晴		

教科書	各科目歯科衛生士教本
参考書	各科目の参考図書
成績評価	各科目の終了時に行う確認テスト（5割）、実施する模擬試験（3割）、出席状況（2割）により評価を行う。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 歯科衛生士に必要な知識・技術・態度を統合的に習得し、国家試験に確実に合格できる学力を身に付けると共に、倫理観と主体性をもった医療人としての基礎を確立すること。
	〔行動目標〕 1. 3年間の学習の振り返りを行い、学習理解をより深める。 2. 就職した際、即戦力として働くことができる歯科衛生士となるために必要な知識と技術を習得し実践する。
授業概要	歯科衛生士として必要な知識、技能を復習し、求められる基本的資質の修得および国家資格取得に向け学ぶ。 歯科衛生士として必要な知識・技術を統合的に習得する。

日程

回数	授業内容
1～5	1) 人体の構造と機能
6～10	2) 歯・口腔の構造と機能
11～15	3) 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進
16～20	4) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
21～25	2) 歯・口腔の構造と機能
26～30	3) 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進
31～35	4) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
36～40	基礎科目模擬試験

41～50	5) 齒科衛生士概論
51～60	6) 臨床齒科医学
61～70	7) 齒科予防処置論
71～80	8) 齒科保健指導論
81～90	9) 齒科診療補助論
91～95	臨床科目模擬試験
96～105	臨床科目実技試験

2027年度 歯科衛生学科シラバス

科目	卒業研究	分野区分	選択必須分野
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必須科目
		単位数	1
		時間数	15
		履修年次	3学年
		実施学期	後期
教員名	岩井 三賀	実務経験	

教科書	歯科衛生士教育サブテキスト卒業研究HANDBOOK クインテッセンス出版
参考書	歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 / 日本歯科衛生士学会 監修
成績評価	最終発表評価（60％）、平常点（40％）※出欠席状況・課題の提出状況・授業態度にて評価する。発表は1人1題とし、評価とする。 優（90点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

科目の目標	〔一般目標〕 学生が専門職として自立・貢献するために、歯科衛生学の知見を深め、科学的根拠に基づいた歯科医療を提供できる実践力を養う。
	〔行動目標〕 1. 歯科衛生実践のために研究が必要であることを理解できる。 2. 歯科衛生実践時の問題発見とその解決手法を理解できる。 3. 歯科衛生に関する文献や統計資料の検索と解釈ができる。 4. 研究に関する倫理的配慮の必要性が理解できる。
授業概要	歯科衛生業務に関する疑問や課題について研究し新しい知識や理論を導き出す。 そこで、歯科衛生士業務における研究をする意義について学び、研究準備やデータ収集の方法について学ぶ。授業米にプリント配布。

日程

回数	授業内容
1	卒業研究の必要性 テーマ及び発表概要検討
2	テーマ及び発表概要提出・職員相談
3	原稿作成、配布用資料、PP作成①
4	原稿作成、配布用資料、PP作成②
5	原稿作成、配布用資料、PP作成③
6	リハーサル①
7	リハーサル②
8	卒業研究発表